

# 介護老人保健施設ライフサポートねりま

**症例概要** 利用者氏名：T.K様(90代・性別：男性・介護度：要介護4)  
病名：左アテローム血栓性脳梗塞  
利用サービス： 入所

経過：H29年4月リハと療養目的にて当老健入所。圧迫骨折の治療にて、回復期病院にも入院され、H30年8月に再入所となる。

## 内 容

K氏は8月頃まで穏やかな入所生活をされていたが、口から食事が摂れなくなり、ADLレベルも徐々に低下。入所当初から、最期までこのライフサポートねりまでの生活をしたい、ここの職員たちに父を看取って欲しいと、ご家族の強い希望があり、全職員でこの気持ちを受け止めケアをしました。

理念である「医療処置に頼らない心温まる看取りケア」をするために、ご本人の意思を尊重し、最期までその人らしく生活が送れるようチームで関わり、ご家族との信頼関係を築く。

いつもと変わらない生活が送れるよう、食事の時間は食堂で過ごし、最後まで入浴をし、心身共に穏やかな時間を過ごせました。

そんな中、妻が骨折し、他院に治療のため入院。少しでも夫と過ごす時間を大切にしたいと希望され、ねりま健育会病院に転院してきました。面会制限のある中でも、夫婦で過ごせる時間を作れるよう施設・病院で連携。夫婦二人で過ごす微笑ましい姿は、私たち職員にも感動を与え、素晴らしい瞬間となりました。

息を引き取る瞬間も、妻が寄り添うことができ、素晴らしいお見送りとなりました。娘さんからも、本当にここで父が最期を迎えられ、母と一緒に過ごすことができたことに心から感謝しています、とのお言葉をいただきました。入所期間も長く、職員のたくさんの思い出と共に、ご本人に寄り添う看取りをすることができ、複合施設としての連携の素晴らしさを感じた事例。